

○「田辺区で地区連絡会議を開催」

(京都府京田辺市田辺区地区連絡会議)(第2回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和元年8月26日午後2時～4時
- 場 所: 田辺区公民館
- 出席者: 田辺区実行組合の新3役、
農業委員1名、
最適化推進委員1名
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役

写真・図面
(地区連の写真又は
必要に応じた活動の写真や図面)

2 地区の特徴、状況、課題

○京田辺市は関西学研都市に位置し、近鉄、JRが市の中央部を南北に走り、京都市、大阪、奈良への利便性が良く、丘陵地を中心に新興住宅地が開発され、都市化が進み、人口が増加している。

○水稻を中心になす、玉露、てん茶、えびいもなどが栽培されているが、高齢化により生産力が低下してきている。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 田辺区の農地は、京都府田辺総合庁舎の北側の市街化調整区域内に広がっている。
- 木津川に近い水田地帯で、稲作を中心に、京田辺特産のなすが栽培されている。
- 小規模農家が多く、また高齢化により耕作が困難となり、水稻作業を委託する農家が年々増えている。
- 田辺区の農地は農振白地のため、ポンプの改修費用や農道の補修に市の補助がないこと、また水利費が底を つき維持管理が困難になってきていること、住宅が増えたため、米の乾燥調製は夜の作業を止め、なるべく粉塵が立たないように気を付けていることなど情報交換が行われた。
- 今回、田辺区では規模の大きい稲作農家が参加したこともあり、水田の畦草刈りに困っている、シルバー人材センターが遊休農地を利用しないか、大規模稲作農家が病気やケガをした時の助け合いや若手農家との連携、育成方法など米に関する意見交換が行われた。

4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援